

戎

橋

えびすばし ● Ebisu-bashi

〈道頓堀川〉



戎橋は大阪ミナミの中心に位置し、企業のネオンサインや店の看板などでも有名な場所に架かっている。この橋が架けられたのは道頓堀の開削とほぼ同時期といわれ、橋名は今宮戎神社への参道に当たっていたからという説や『摂津名所図会大成』には、この地で毎年正月に西宮戎神社の神像を立て人々の信仰を促したことによるなどの説があるが定かではない。また、橋の南側に芝居小屋があったことから操橋（あやつりばし）と呼ばれたり、明治維新直前には永成橋と呼ばれたこともあった。

当時から今宮戎神社への参道や千日墓地への墓参、遊興地への連絡路として利用する人が多い町橋だったため、橋周辺の町が多大な手間と費用で維持管理してきたが、明治11（1878）年に木橋から鉄橋に架け換えられた。

その後、第一次都市計画事業に基づいて、大正14（1925）年に鉄筋コンクリートの橋に架け換えられ、後の昭和54（1979）年にリフレッシュ工事が施された。しかし、老朽化が進行したために平成16（2004）年から3年の月日を掛けて架け換え、同19（2007）年11月、円形を基本としたデザインで高欄の外側にスロープを設けた新しい戎橋が完成した。

